

2025 第33期江東区パルカレッジ

人生にプラス α !

～ 学びの扉を開く8日間～

ダイジェスト

2025 第33期江東区パルカレッジ概要

誰もが固定的な考え方の枠にとらわれず、自分らしさを大切にしながら多様な生き方ができる社会の実現を目指し、男女共同参画の視点から、自分の生き方や家族、地域、社会との関わりについて学び、考え、実践へとつなげる連続学習講座です。

- **開催日程** 令和7（2025年）5月15日（木）～7月10日（木） 全8回
- **会場** 男女共同参画推進センター 第1～3研修室
- **学長** 江東区長 大久保 朋果
- **修了者数** 15名（4回以上の出席を修了とする）
- **主催** 江東区総務部人権推進課



江東区

第1回

ワタシの中の性別役割分担意識を知る

講師：荻野 佳代子 氏（神奈川大学人間科学部教授）

8回の講義のイントロダクションとして、「性」や「性別役割分担意識」とは何かを学習しました。また、ワークやディスカッションを通じて自分が持つ「男性」「女性」のイメージを確認し、さまざまな場面でのステレオタイプや無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）が個人や社会に与える影響を心理学的な視点から学び、思い込みに気づき当たり前を疑うこと、自分らしさを生かせる社会の重要性について考えました。



第2回

身近にあるジェンダー・バイアス ～それって本当にアタリマエ？～

講師：池田 和嘉子 氏（公益財団法人日本女性学習財団 学習事業課長）

前回の学びをさらに深め、私たちの身の回りや社会の中での「モヤモヤ」について考えました。社会的・文化的に形成された性別役割や無意識の思い込みが、個人の選択や行動を制限し差別や不平等を生む現状や、「男/女らしさ」が生まれてきた背景を学び、そこから生じる「生きづらさ」にも注目しました。そして、違和感を大事にして固定観念を見直し、自分らしく生きるためにできる一歩を考えるきっかけになりました。



第3回

見えないものが見えてくる ～メディアの見方、とらえ方～

講師：谷岡 理香 氏（メディア総合研究所 所長）

メディアが私たちの意識や価値観の形成に大きく影響することを学び、受け身ではなく能動的に「読み解く」ことを学びました。また、メディアでの男女像などの描かれ方の変化を振り返りました。SNS時代のフェイク情報や報道の担い手の価値観の偏り、報道の自由度といった課題を踏まえ、自分が自分らしく生きていくために、誰が何を価値ある情報として発信しているのか、批判的に考える大切さについて考えました。



第4回

ワタシたちをとりまく社会の変化 ～ジェンダーへの視点を中心に～

講師：加藤 秀一 氏（明治学院大学社会学部 教授）

ジェンダーの視点から社会の変化を考察しました。社会の変化を理解するには、過去を正確に知ることが欠かせないことや、ジェンダーやステレオタイプの歴史的背景を確認し、「伝統」とされてきた家族や結婚のあり方が、必ずしも不変ではないことを学びました。さらに、社会の大きな変動がライフコースに影響することも踏まえ、自己責任論にも「社会のせい」にも偏らずに自分らしい生き方を選ぶための考え方を学びました。



第5回

家族みんなで楽しく暮らす！～ご機嫌に過ごすための家事半分術～

講師：佐光 紀子 氏 (家事研究家)

「きちんとした家事」や「家事は愛情」という考え方が歴史や社会の中でどのように形成されてきたかを振り返りました。また、家事を共有するために、具体的に伝える、ゴールを共有する、尻拭いをしない、感情を挟まずに伝えるなど、日々の生活に役立つコツを教えてくださいました。家事は「愛情の証」ではなく、「家族みんながご機嫌に暮らすための暮らしの技術」であることを学びました。



第6回

身近にあるDVに気付く～自分も相手も尊重し合える関係を作るために～

講師：吉祥 眞佐緒 氏 (一般社団法人エープラス代表理事・自治体DV専門相談員)

「DVは誰にでも起こりうる身近な問題」であることを確認し、その背景にあるジェンダー・バイアスや社会構造について学びました。また、身体的・性的・経済的・精神的など様々な暴力の形や、DVのサインに気づく力、被害者の声を受け止める力、支援につなげる力の重要性について解説いただき、支援は「助ける」ではなく「寄り添う」ことについて学び、対等で尊重し合える関係づくりについて考えました。



第7回

多様な性ってなんだろう？～誰にとっても居心地の良い社会を目指して～

講師：はぎわら さち 氏 (性の多様性教育インストラクター)

セクシュアリティを構成する要素やカミングアウト・アウティングといった、LGBTQ / SOGI の基礎についてご講義いただきました。また、何気ない言動が差別や孤立を生み出していることも学び、身近な問題として捉える機会となりました。さらに、子どもたちを取り巻く課題や、配慮ある対応のポイントも学び、「ふつう」を見直しながら、一人ひとりの違いを尊重する社会づくりについて考えました。



第8回

自らのライフキャリアをデザインする

講師：荻野 佳代子 氏 (神奈川大学人間科学部教授)

これまでの講義を振り返るとともに、仕事だけでなく家庭・地域・学び・余暇を含む自分らしい生き方「ライフキャリア」を、予測困難 (VUCA) な時代や少子高齢化などの社会の変化と結びつけて捉え直しました。また、固定的な性別役割にとらわれず多様な生き方を選ぶ視点をご講義いただきました。そして集大成として、4つのL(労働・愛・学習・余暇)で将来像を描き、今できる一歩を考え、自分らしく柔軟に生きるキャリア設計を学びました。



公開講座

ありのままに今を輝く～尾木ママと考える包括的性教育の大切さ～

講師：尾木 直樹 氏（教育評論家）

包括的性教育とは生殖の知識だけでなく、人間関係、人権などまで含む学びであることや、性はグラデーションであること、また、SNS が発達した時代だからこそ、性被害・加害の当事者とならないために包括的性教育が必要であることをご講義いただきました。また、こどもとの向き合い方についても教えていただき、受講生からも、「こどもや孫と接するうえでためになった」などと声が寄せられました。



修了生の声（抜粋）

- 印象的だったのは「無意識のジェンダー・バイアス」に気づかされる機会が多かったことです。どの講座も、知識を得るだけでなく、自分自身のこれまでの経験や価値観を振り返るきっかけとなり、「あたりまえ」だと思っていたことを問い直す貴重な学びとなりました。
- 講座を通し、一緒に学び共感できる友達ができました。
- 同じ方向を向いている仲間ができたことが大収穫でした。
- 自分をもっと広げて、やわらかくしていきたいと思いました。
- 自分の考えと違うことばかりで、発見ばかりでした。
- 年齢や性別、属性の異なる人々と机を並べて意見を出し合う場はとても学びになり、刺激的でした。
- どの先生も、世界中の人類はみんな差別なく男女平等であることをお話しされていて、とても勉強になりました。
- 多様性やジェンダーについて普段あまり真剣に考えていなかった、というよりやや無関心寄りだった自分を猛省しました。
- これおかしいな、と置いていらっしゃる方々とともに先生方の講義を聴けて意見交換もできました。なかなか前進していないように思えた事柄も、地道に活動を続けたり、裏付けをもとに話し合い、共有していくことで改善していくのだと実感しました。
- 今を生きる一人の人間として、いろんな価値観を持った人々を受容して、一緒にこれからの人生を歩んでいけたらという思いになりました。



江東区パルカレッジは、本区における男女共同参画推進施策の主要事業の一つとして平成5（1993）年に開講した「江東区女性大学」をその起点とし、以来30年を超える歴史を持つ連続学習講座です。令和8（2026）年度の実施については、こうとう区報等でご案内いたします。



江東区パルカレッジ学長
江東区長 大久保 朋果